

SDGs 横浜の挑戦



幸せつなぐアンバサダー

横浜市花であるバラを通し、人と人をつなぐ活動に取り組む「はまみらいアンバサダー」の児童らが、コロナ禍や豪雨被害で大変な思いをしている人たちに、励ましや感謝の心を届けようと、横浜開港150周年を記念して、ESGというポイントで

市教育委員会小中学校企画課指導主事の池田孝さんによると、同アンバサダーが発足したのは2019年。横浜ローズプロジェクトの一環として18年に公立校10校ほどにはまみらいの苗が配られたが、この時、栽培を担当した児童らのうち有志が「就任」した。「こんなに素敵な香りの花を自分たちだけで楽しむのはもったいない。もっと広めたい」という思いは共通。現在は和泉、井土ヶ谷、神大寺、平沼の市立小学校4校の15人ほどで活動している。



和泉郵便局にはまみらいの折り紙を贈呈したアンバサダーら
6月11日(池田孝さん提供)



ケースに入った「はまみらい」の折り紙

本日紹介した「はまみらいアンバサダー」の話題、取材のきっかけは「わたしが伝えたいSDGs」メッセージ欄へ子供たちから寄せられた投稿だった。



「利他の精神」 感覚的に捉え

感心したのは、「幸せな気持ちを届けようと思ったのに、自分たちが幸せな気持ちになっちゃった」という言葉。SDGsの本質の一つといえる「利他の精神」を感覚的に捉えている。

温まる贈り物に泣いて喜んでくれるお年寄りもいる。その反応に子供たちも大切なことに気づく。「幸せな気持ちを届けようと思ったのに、自分たちが幸せな気持ちになっちゃった」。人のために何かをしたら、幸せになれるんだ。

7月には九州が豪雨被害に見舞われ、テレビ映像が現地田市の惨状を映した。福岡県大牟田市立みなと小学校ではけた箱が浮き、児童二十数人が校舎内で一晩過ごしていた。今度もZoom会議を開いた。はまみらいケースに加え、シンガー・ソングライターAIの「ハピネス」を振り付けで歌って動画を贈ることになり、役割分担もあつという間に決まった。さらに直接教頭先生に電話を掛け、「寄せ書きと本がいただければうれい」という言葉をもらい、みんなでメッセージを書き込んだ。同校の夏休み前に間に合うよう郵送した。

ESG投資なぜ注目 持続可能なビジネスへ

環境(Environment)、社会(Social)、企業統治(Governance)に配慮する企業を選別して行う「ESG投資」。2018年度の世界の運用残高は3350兆円に達し、今や企業にとっても対応が必須となっている。だが、一般市民の理解度は今ひとつの感も。ESG投資が注目される背景や県内の状況などについて、横浜銀行広報室の岡村健寛室長から話を伺った。(春名 義弘)

横浜銀行広報室長に聞く

転機となったのは、06年に国連が発表した「責任投資原則」だ。短期的な利益を出す業績至上主義が一時期もはやされたが、公害、パブル景気を経て、目先の利益は長続きしないことが分かった。その後のリーマン・ショックもしかりだ。

「持続可能なビジネスが成り立つにはどうすればいいか、整理したのが原則であり、ESGというポイントで

SDGsの各目標との共通性もかなりある。ESGへの取り組みに後れを取る企業は投資から外される。逆に積極的に取り組む企業には、資金が集まりやすくなる。その結果、コストは掛かってはいるが、長期的には成長し、さらにお金が集まり、より発展する」という図式だ。

経営へのESGの取り込みがマストとなった大企業は、下請けや取引先にも対応の徹底が求められる。さらにその先にある中小・零

中小企業経営者を対象に、ESGやSDGsの経営実装について解説した横浜銀行の「SDGsセミナー」



中小企業経営者を対象に、ESGやSDGsの経営実装について解説した横浜銀行の「SDGsセミナー」

その一つが19年10月から取り扱いを開始した「SDGsフレンズローン」だ。「経営計画とSDGsの関連性、SDGs達成への行動や社会へのインパクトを考慮していただくきっかけを提供しています」と岡村室長。

横浜銀行では、ESG目標の経営を企業に浸透させるため、どのような取り組みをしているのだろうか。

「E」はCO2削減や再生可能エネルギーの使用、環境破壊の防止など、「S」は働き方改革、女性活躍推進、地域活動への貢献など、「G」は法令遵守や透明性確保、積極的な情報開示などが挙げられる。ESGというポイントで



レジ袋減らし 海を守りたい

小学5年 竹内 柚生 SDGsの14番目の目標は「海の豊かさを守ろう」だ。「海の豊かさを守ろう」だ。身近なところでは、プラスチックごみが海に流入しないためにも、レジ袋を減らすことが大切だ。

私の母は、週に1度スーパーマーケットに行くが、とても大きな保冷バッグを二つも持って行き、レジ袋を買わないようにしている。私もごみの分別やごみ出しをこれまで以上に手伝っていきたく思う。(横浜市鶴見区)

メッセージを募集
当欄への投稿は、電子メール(sdes@kanagawa-npc.co.jp)または郵送(郵便番号223-1184(45)(住所不要)神奈川新聞社「SDGs横浜の挑戦」編集室まで。